

# U-NITS vol.3

U-NITS：「研修観の転換」に向けて NITS が挑戦している様々な取組について発信し、全国のみなさまと「新たな教職員の学び」の協働開発を図るためのメールマガジンです。

## I) 令和5年度 NITS での取組を経て

まず、令和5年度、NITS に派遣された特別研修員<sup>\*1</sup>が、約1年の研修・取組を通して感じたこと、考えたこと、自身の変容等についてまとめた記録を一部抜粋してご紹介します。

マネプロを通して、「対話」に対する私の意識は大きく変わってきた。私はこれまで、研修中で行われる「対話」や「議論」に対して、少しネガティブなイメージがあった。

初任研のときには、研修の度に「初任者として困っていること」を話せと言われて辟易したし、その他のほとんどの研修では議論の先に結局「正解」らしきものがあって、それにたどり着くためにわざわざ議論をしている気がしていた。答えのない問いを考えるワークショップ型の研修もあったが、ではその研修で話し合ったことを現場の仕事に生かせたかということ、どうも心許ない。対話の際には、いつも周囲の意見を調整しながら、答えらしきものに向かうためにそれらしい発言をすることが目標になってしまっていた。

ところが、マネプロで何度も何度もテーマについて他の方と話し合っていくうちに、「自分はこういうことには、とても反応してしまうのだ」とか「ここは譲れないこととして今まで努力してきたのかもしれない」といった、自分自身の価値観を客観視することが増えてきた。そうすると、自分に足りない視点は何か、またそれを他の人に補ってもらうことの大切さを感じるようになってきた。同時に、

「相手がどのようなことに価値をおいていて、どう考えたいと思っているのだろう」という考えを持つようになった。

対話を繰り返していると、ある種の相対的な視点を持つようになることに気付く。自分が感じていることを言語化し、相手に伝わるように、時に「変とかおかしいとか思われないうように」取り繕いながら話していると、相手との共通点や違いを感じ、自分についてより深く知れるような気がした。

会議ではなく研修として、ゆっくりとそれぞれの価値観に触れられるような、そういう場が保障されているというのは私にとっては非常に貴重だと感じている。これはおそらく、「職場のメンバー」と、「答えのない問い」を「繰り返し」考えるように設計されていることが大きいのではないかと感じている。

令和6年度、特別研修員は、地元の教育センターに戻り、各教育センターと NITS とで取り組む「新たな教職員の学び」の協働開発を橋渡ししてもらうこととなります。

## II) 令和5年度 NITS の取組

令和5年度、NITS では「研修観の転換」を図ることを目的に様々な取組を実施してきました。その一部をご紹介します。

- コア研修（1年コース）  
新たな探究型研修の企画・実施
- コア研修（2年コース）

年度をまたぐ継続的な探究型研修

- 教育行政リーダー研修  
教育委員会幹部職員等が対象の探究型研修
- マネプロ\*2（NITS 内部）  
NITS 職員向けの年間を通じた探究型研修
- マネプロ\*2（全国版）  
NITS 内部で実施していた取組をオンラインで、全国の参加者ととも実施

次年度は引き続き、全国版のマネプロを開催するとともに、新たに東京事務所を「ラーニング・ハブ」として位置付け、全国との協働をより広げながら、さらなる試行錯誤を続けていきたいと考えています。

### Ⅲ) 「研修観の転換」に向けた自治体との協働

「新たな教職員の学び」の開発に向け、今年度はとても多くの教育委員会等と協働させて頂いたと考えています。

まず、14の教育委員会等から出向者や特別研修員をNITSに迎え、一緒に研修をつくってきました。次年度は、3つの教育委員会等が加わる予定になっています。

また、年間を通じて、9県市の教育センターに出向き、教育センターの指導主事等向けの研修会や校内研修を開催させて頂きました（順に、長崎県、高知県、山梨県、埼玉県、いわき市、長野県、石川県、富山県、鳥取県、三重県）。それとともに、教育センターの職員がNITSに来訪され、研修を見て頂いたり、意見交換したりすることも増えてきました（長崎県、山梨県、京都府、北海道、岩手県、鳥取県）。

いずれの機会においても、教え、教わる、という形ではなく、研修のデザインに関し、対話などを通して、互いの気付きが生まれることを重視しました。

研修を実施された自治体も、来訪して下さった自治体も、今までと違う形に、はじめは戸惑い

を覚えつつ、最終的には、自身の考えや意識の変容を感じ、意義や価値を見出してもらったことも少なくなかったのではないかと感じています。例えば、ある教育センターの方は、「研修前の私は、先生方のニーズに応えるために、実態の把握をもっと細かく行なって…という想いでしたが、県センターとしてできることは、先生方が自ら学び続けようという視点やエネルギーなどを持って帰ってもらえることだと気付きました」と振り返っていらっしやいました。

子供たちの学びと同時に、教職員自身の学びをより豊かに、ワクワクするような時間にするための「学びのコミュニティ」が徐々に広がっています。

NITSとしても、来年度更なる展開を目指し、より多くの自治体の皆さまとともに、「新たな教職員の学び」を協働開発していけることを願っています。

#### \*1) 特別研修員

令和5年度よりNITSが立ち上げた、「『新たな教職員の学び』協働開発推進事業」において、各自治体より派遣される研修員のこと。

#### \*2) マネプロ

「研修マネジメント力育成プログラム」の略称。NITSの職員研修の一つで、研修のデザイン、ファシリテーション等を多様な視座と視点に基づいて学び、学び合うことにより、研修マネジメント力の向上を図る取組を示す。

※このメールマガジンは、教育委員会、教育センターの方々を中心に、全国で教職員研修に携わっている方々に向けて配信しています。教育委員会、教育センターの職員やご関心がありそうな方々に、広く共有いただけると幸いです。

独立行政法人教職員支援機構

次世代型教職員研修開発センター 研修開発課